

糸燃後備

和紙糸事業伸ばす

改めて受託生産にも力

擦糸加工の備後擦糸

（広島県福山市）は、

和紙糸（備和）（びんわ）

を通じて自販事業を強

化している。丸編み製

品向けを中心に採用が

広がっており、自販の

割合が売上高の6割は

どを占めるまでになっ

た。光成明浩社長は「今

後も値段が高くて使

ってもらえないような、

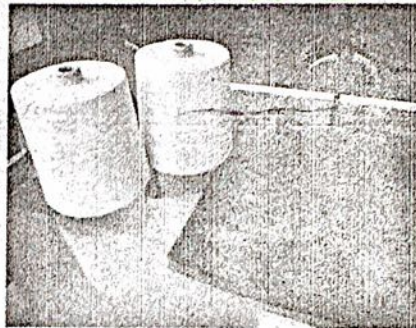
尖ったモノ作りをして

いきたい」と語る。今

期（2026年3月期）

は備和の販売に加え、

採用が広がる和紙糸



受託生産にも改めて力を入れる。

09年に和紙事業部を立ち上げて以降、和紙使いの擦糸の自販を進めてきた。販売も軌道に乗っており、「ここ5、6年は売り上げがずっと伸びている」（光成社長）と言う。

現在は和紙とリサイクルポリエステルとの交擦糸を20、27番手の2品番備蓄する。素材や擦り方向を変えるなど、顧客の要望に合わせた試作にも柔軟に対応する。糸の品質の向

上とともに、さまざまな素材の交擦にも挑戦してきたことで、採用が広がってきた。これまで継続してきた大阪地域への営業に加え、今後は「和歌山方面ももう少し開拓していきたい」。

和紙糸の売り上げの7割がカットソーや靴下といった丸編み向けとなる。この理由について、光成社長は「和紙の風合いが分かりやすいからでは」と説明

する。織物向けでは緯糸に採用されることが多いと言う。

近年、和紙糸の販路開拓に力を入れてきたが、「和紙糸しかやっていない会社とかわれていくケースも増えてきた」と光成社長。他社がやりたがらないような小ロット多品種生産や、長繊維糸と短繊維糸の複合などに対応できる強みをアピールしながら、改めて受託加工の受注にもつなげる。